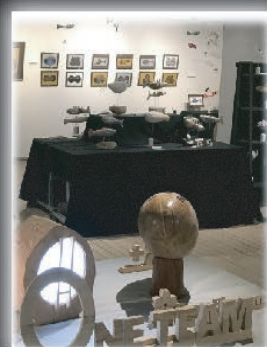


Flexible Network with Various Experiences in Nissan Design Studio



CONTENTS

- 新感覚のデザイン（HP非表示）
- 森に住まう
- そばが打ちたくて始めました
- 日産デザインの外側で（HP非表示）
- 徒然に雑感
- ゴルフコンペ報告
- R 5年活動報告

森に住まう

-第2報 ハーフセルフビルドの家、インフラが整うまで-

■我妻 亨

まずは近況報告から

みなさんご沙汰しています。

昨年の報告では2022年12月時点で地面と空を手に入れたところまでお話ししましたが、その後音信が途絶えてしまひすみません。2024年6月末にやっと外壁貼りが終わり足場がとれNAKEDになりました。近所に住む移住者やかつて日産デザインと一緒に仕事をした人たちに外壁貼りを手伝ってもらいながらここまで来ることができました。

この場を借りて渡辺(悦)さん、長澤さん、藤井さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。

7月の第一日曜には地区の保存行事である御神楽がやって来ました。慶事のある家を回って舞うのだそうです。江戸時代から続いているそうで、地区の人たちが代々伝え継いでいる獅子舞で、ゆったりとした唄、笛、太鼓に合わせて獅子が舞う姿を見ていると地区に一步踏みこめた気持ちになりました。



舞の後はお振舞いということで、お酒やお茶を出して、ひとしきり話をすることができました。顔を知ってもらっているだけでなく住んでいる場所を知ってもらうことで、「何処そこの誰々」という形で地元に住んでいる人の頭の中に私達の名前情報と位置情報が対になってインプットされて、少しだけですが馴染みの関係ができたのかなと思いました。

左は御神楽の舞とお祓いの様子です。



ナワバリ

時間を戻して、2022年11月の末のことです。

9月に茅野市で仮住まいをしながら建築計画を進め、おおよその平面プランが決まったところで、土地に杭を打ってロープを張り実際の位置と家の大きさを決めます。これを「縄張り(ナワバリ)」というのだそうです。この語感にもよるのですが、これができた事でここは自分達の場所だという思いが強まりました。



ナワバリ（西側からの景色）

さてナワバリが終わったところで家造りが始まるのかというと、そうではなく、休止です。冬場は寒くて地面が凍ってしまい土が掘れないので寒さが和らぐ春までおあずけでした。その間は建築家と建築計画の擦り合わせでした。妻の陶芸工房と住居を予算内でどうやって両立させるかについての相談に地元の建築家の事務所に通いながら、その前後には森に行き、ナワバリされた地面に線を引いたり木の棒を置いたりして1分の1の絵を描いていました。まるでフルサイズレンドですよ。

水道工事

4月になって寒さがゆるみ出した頃、水道工事が始まりました。家を建てると思ったこの土地には水道がなかったんです。すぐ近くに家はなく約100メートルを自前で敷設しなければなりませんでした。またこの土地は水道の分岐点から10メートルほど上にあるので水圧と管の太さを確認してもらう必要もありました。

こういった訳で水道の分岐点から森の家に至る道に沿って(正確には、他人の土地に勝手に水道管を埋めるわけにはいかないので、道の境界線を出して道の中に)水道管を埋めました。そしてもう一つ水道管敷設に関してこの地域ならではの特徴がありました。それは埋設の深さです。冬はマイナス10度以下になることがよくあるので水道管が凍って破裂しないように温度変動が少ない地下1メートルくらいの位置に埋設しました。この深さは各町村毎に条例で決まっているそうです。



こうやって掘って埋めて、掘って埋めてという作業を行なって、水道が家の近くまで来たのでした。



水道工事と合わせて土地の区画の確認や上水・下水の引き込み位置の確認もやりました。



水道工事が終わって綺麗な道になった！、と思ったのも束の間、建築のための重機が入って来たので道は凸凹になっているのが現状の姿です。

ちょっと寄り道 縄文遺跡の発掘

5月6日にはこんなこともやっていました。
地元の考古館にて縄文時代の遺跡発掘のお手伝いです。

ここ諏訪地方は縄文時代の遺跡が数多く眠っている場所です。今私が住んでいる諏訪郡富士見町周辺にもあちこちに遺跡があります。縄文時代には日本一人口が多かったエリアだとも言われています。



甲斐駒ヶ岳を望む発掘現場

この地域の遺跡発掘のやり方は独特で、考古学の専門家やそれを専攻している学生が参加するのではなく、地元に住む人たちが発掘作業を行うというやり方を一貫して取っています。この人たちは「おらあとうの遺跡」(自分たちの遺跡)と言っています。もちろん考古館の専門家が発掘の仕方を指導・監督しているのですが、週に3日ほどですが地元の人たちと一緒に作業をしているとこの土地の成り立ちや地形の意味について考えが深まりました。

そしていちばんの収穫は遺跡発掘とはどういう事なのかということを知ったことです。発掘というと土器や石器を掘り出して復元して集めるということに目が行きそうですが、モノが重要ではなく遺物がどこからどんな状態で出てきたのかが重要で、出てきた土器片などは記録を終えるまでは取り出さずに埋もれた状態を維持したままその場所に残しておきます。このようにしてどこに何があったのかを記録することで縄文時代に生きていた人たちの生活の仕方やその広がりを考察することにつながるのだそうです。

もう一つ印象に残ったのは、引っ越しの際に縄文人達は今まで使ってきた土器を自ら壊して臼つ壊した土器片を周囲にばら撒くということを教えてもらいました。発見される土器の破片は自然に壊れたのではなく意図的に壊されたと言えるような壊れ方をしているのだそうです。縄文人は終生同じところに住まうのではなくある期間を経ると住居を移すらしいのですが、その引っ越しの時、今まで使っていて慣れ親しんだ道具をなぜ持って行かないのか、運ぶのが面倒ならそのまま放置していだけで良いのになぜ壊してしまうのか、ハッキリとした理由はわかりませんが日々の中に色々な節季を設けて気持ちの切り替えを図る日本人のエッセンスがここにもあるのかなあと思えました。

最後に発掘調査が終わるとどうするか？ トレンチ(溝)は埋め戻されてしまいます。遺跡を発掘することが目的ではなく遺跡を保存することが目的だからなんだそうです。と言うことで、住居跡や遺物を確認した後は埋め戻してしまいます。ほじくり返されて風雨に晒されて劣化するよりは、土に埋まっている状態の方が長く保存ができるからです。その土地には建物は建てずに草地になって看板が立っています。そんな場所があちこちにあります。

ちょっと寄り道でした。
次のページでは水道以外のインフラ整備について説明します。

インフラについて

2 ページ前に水道のことについて書きましたが、手に入れた土地には電気も来ていませんでした。整備されていたのは下水道だけ。とはいえ下水道があると言うのはラッキーなことなんです。別荘地ですら下水道がなく浄化槽で処理しなければならないところが結構あります。浄化槽の場合には設備導入のインシャルコストだけでは終わらず定期的にメンテナンスをしなければならないと言うマイナスポイントがあります。仮に近くに下水道が通っていたとしても下水は上水のように圧力をかけて送るのではなく自然落下で流れるものですから地形によっては流せない場合があります。我が家の場合は下水道の位置・地形に問題がなく下水に関してはすんなりいきました。この点についてはメダシでした。

3つ目のインフラ「電気」について

下の写真は仮説の電柱です。5 月末に立ちました。しかし、全く役に立ちませんでした。なぜかと言うと、近くに電柱がなかったからなんです。大工さん達が使う工具のために電気が必要なので仮説電柱を建てたのですが、電気が通ったのは10月31日でその時にはすでに大工さん達の作業は終わっていました。そういうわけで結局使わず仕舞で、邪魔っけな無用の長物がただ突っ立っていました。



電気を引くというのは水道のように業者に頼んですぐに作業してもらえるコトではなかったのです。水道を100メートル先から引いたように電気も100メートル先から引かなければならなかったのですが、電気が使えるようになるまでに5ヶ月もかかるとは建築家も思ってもいなかったようです。「森に住もう」と言う通り最寄の家から離れているのでインフラを自前で整えなければならませんでした。電気についていえば電力会社が全て面倒見てくれます。公共事業なので自前の出費はありません。

しかし逆に公共事業（お役所仕事）ゆえに各種の手続きがある事、景観に関する認可取得する事、電柱設置/架線設営などの作業が各種関連会社に枝分かれしていて動きが遅い事、そして電柱を建てる土地の地権者からの承諾の取得といったように私が知り得た業務仕分けだけでも上記のようなことがありました。そしてお役所仕事ゆえに幾らあおってもおねだりしても日程は変わらず、やっと電気が来たのは6月初めの申請からまるまる5ヶ月後の10月31日でした。その時は文明に触れることができた喜びでひとしおでした。森の家の文明開化です。

では電気が通るまでの間に建築作業をやっていたのかというと、大工さんや業者の日程を遅らせる訳には行かないので、休む事はできません。大工さん達は発電機を持ち込んで工具を使っていた、また私達もハーフセルフビルドの家なので大工さんが帰った後に作業をするために発電機を買いました。下の写真は夜の作業の様子です。この記事の初めに外壁貼りが終了と書きましたが、室内の壁貼りも私達の担当なのでこちらもボチボチ進めています。



9月ごろの夜の様子です

ここまでのまとめ

今回は主にインフラ関係についての報告でしたが、これから森の中に住むことを考えている方々への参考情報になれば幸いです。都会のように上下水道・ガス・電気がすぐにつながる土地と違い、時間と手間とコストがかかることを知りました。

一足飛びに9月の写真を載せましたがこの間の6月/7月/8月には家造りの大イベントである基礎造り～棟上～室内の施工などが続きます。その間の顛末は次回第3報で報告したいと思いますのでお待ちください。

to be continue till the end of our life

そばが打ちたくて始めました

- 趣味の手打ちそば屋『桃介亭』 -

■飯島英雄

そば屋『桃介亭』を始めたきっかけ…

CB社退職後は、楽しく、健康に過ごすことを目標に、2002年春から自然豊かな環境の木曽(南木曽町)で自給自足的な田舎暮らしを始めました。

15年ほど自然農法の野菜づくりに取り組み、一反程の畑で四季の収穫を経験しました。この間は、採れた野菜を知人友人へ無理矢理送付し、都会からの美味しい食材と物々交換する『柿其農園(かきぞれのうえん)』を続けました。この柿其農園と、春秋に原宿で開催した木曽の食材を使った野菜パーティーは、有意義な経験となりました。

また、名古屋からの若い観光客との出会いから始まった畑体験イベント『つまごえん』が10年続きました。春から秋まで毎月2回、日帰りで畑体験+町内観光を行うイベントです。年間延べ70~80人の皆さんが楽しめました。

しかし8年前、地域の春の祭りで飲んだ後、酔って自宅の梁から転落する失態をしましてしまい、骨盤骨折で半年間名古屋の病院で入院生活をする羽目に・・・。

退院時は、杖使用の歩行、車の運転はOKとのことで山の暮らしは継続できたものの、『柿其農園』『つまごえん』の活動は終了しました。

田舎暮らしのピンチでした。



その時出来ることは“そば打ち”くらいだったので、リハビリも兼ねてそば屋に挑戦することにし、半年の準備期間を経て2017年7月『桃介亭』を開店しました。

今思うと、“怪我の功名”ということですね。



ひとりそば屋の日々…

素人がひとりで、しかも70の手習いで始めることです。無理をしない営業内容を考え、週末金土日の3日間を営業日とし、前後の2日間を準備と片付けに費やすことにしました。営業日は、6:30~16:30の10時間、店内外の清掃から始め、そば打ち、支度、接客、そば茹で、天ぷら揚げ、配膳、洗い物、翌日の仕込みなどの作業が続きます。

かなりハードなリハビリプログラムとなりましたが、お陰様で体調はすっかり良くなり、怪我をしたことを忘れてしまうほどです。

とはいえ高齢者の店なので、清潔感、明るさ、楽しさなどに気を配ることに加え、記憶力の低下による予約忘れ、チェック漏れなどのミス防止にも気を付けています。

お客様からは「急がなくていいですよ!」「ゆっくりやってくださいね!」と声を掛けられています。

今年8年目を迎えた『桃介亭』の状況…

スタートからの2年間は、そば打ちでのロスが5%くらい発生、一日の来客数は平均7人程で、当然来客ゼロの日もありました。

「石の上にも3年」の頃から、ロスは2%程度、一日平均9人ほどに来客数も増えました。コロナ禍は飲食店の休業要請期間もありましたが、営業日の50%が完売日となりました。5年目以降は、ロスは0%、一日平均10人以上の来客数、営業日90%が完売日です。

店を始めた頃は「今日はきちんとそばが打てるだろうか」「お客様が来店してくれるのか」などと心配事が多かったのですが、初心である「そばが打ちたくて始めました」の想いに気持ちを集中し、納得できるそば打ちを心掛ける日々になりました。

何よりも、町内に住む方が掲載してくれたGoogleマップに高得点のクチコミが投稿されてから、有難いことに観光客の予約電話および来店が年々増える状況になりました。



そば屋で、しかも店主が高齢であるため、ご利用者の大多数が60代以上であるのは当然のことですが、来店される観光客の中には、若いカップルやお子様連れのご家族、一人旅の若者など幅広い年齢層の方がおり、大変刺激のある日々です。

地元町内および近隣の方と観光客が1:2くらいの割合で、リピーターのお客様が半数以上を占めるようになっていきます。

大勢の方に支えられている『桃介亭』…

南木曽町で暮らし始めて20年が過ぎました。それ以前のCB社、日産自動車の勤務も含めて大勢の方と出会ってきました。

そうした方々との縁を大切にして、店作り〈什器、食器、展示装飾品、販売品など〉、そして仕入れ食材〈そば粉、野菜、山菜、飲

料、酒類、菓子類など〉の中で活用させていただいています。

私にとって、言わばこの店は人生の集大成です。それらに関心を持たれたお客様とは、会話が弾み、より一層楽しいひと時となるのです。

(次ページより店舗内の写真を掲載しています。是非ご覧ください)



80才にして田舎暮らしを満喫する日々…

田舎暮らしの目標とした「楽しく健康に過ごす」ということは私にとって、

- ①家事がスムーズに出来て
- ②更に打ち込める楽しい事柄があり
- ③その事柄を通じて他人に喜んでもらえる状況をつくることだと思ふこの頃です。

特に③の状況から生まれる人とのコミュニケーションを持つことで、単調な日常の彩りとなり、「心身ともに健康で楽しく豊かな暮らし」になったと感じています。





桃介亭の 店内風景

桃介亭は、南木曽駅近くの
天白公園に建つ町の施設です。
以前食堂営業を行なっていた
空き家で、少し手を
加えただけで活用しています。



店内販売の地元産品



栗崎さんの2023年かたちの会作品展出品作



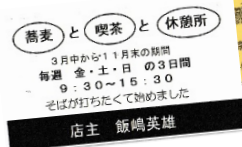
荒崎さんの水彩画ポストカード

桃介亭店舗 と周辺風景

街の中心部に位置する天白公園は、木曽川の流れと周辺の山の豊かな自然風景が魅力的です。
桃介亭のお客様は、その絶景を楽しんでいます。



中央右：桃介亭、左：桃助記念館、左端：中学校



新聞折り込みチラシとショップカード

(撮影・編集：地域おこし協力隊 清家 早輝)

徒然に雑感

■小橋 茂

人生100年時代に3/4が経過した今、上がりの車購入を検討。前はセレナC23, C24で30年20万キロ走行、よじ登る運転席、重いステアリング、難儀な取り廻し等々、近所のスーパー通いと稀の駅送りに難儀を感じ、ガソリン動力のルークスタボ付きを購入。

ステップ変速CVTで爽快な走り、キュッと締まった乗り味がプリメーラP10を思い起こさせる。プロパイロットや種々てんこ盛りで使いきれない機能付き。それぞれ片道2キロ短距離移動がほとんどだが、頭かがめて前向きに乗り込み腰を下せば椅子がありドアを開けて足を出すところに地面がある、乗り降りし易くステアリングは軽く小さくて駐車場での止め易さ等々4割強の人に支持されるのも納得。

本革巻きステアリング、ステッチ入り革風インスト、人工皮革のたっぷりとしたシート、足元広々大型センターモニターとおもてなし仕様が気持ち良い。種々の運転支援機能にも徐々に慣れて、プロパイロットに感心したり小さな車を身近に感じて楽しんでいます。

タイヤを四隅に配置ガチガチの箱スタイルが潔い。巷で増殖中。昔の軽は我慢車だったが今は進んで選ぶ小型車。



最近購入したルークス

気候変動・温暖化と二年続きの高温記録を更新している中、田舎の半農暮らしで今まで通りにいかないことが多い。野菜の種子を蒔くときも種子の袋には「当地の気温をお調べください」の注意書きが。過去の経験が通用しないので種蒔き、苗の定植に気を遣う、いつまでも気温下がらず種蒔き収穫のタイミングが難しい今日この頃

90年代初めIPCC東京大会で気温上昇による暴風雨の増加や干ばつの増加を予測、今日これらが頻発している。世界を見ても洪水、高温乾燥状態で山火事あちらこちらで頻発、温暖化防止にCO2削減をうたっているが成果が上がっているようにはみえない。ワカサギの穴釣りをしていた山中湖は遥か遠くそここの海岸砂浜にテトラポットが入り小さな港の荷揚げ場は満潮で水没（江の島湘南港東京オリンピックヨット競技に合わせて整備）卒業式に咲くソメイヨシノ、北関東の温州みかん、日焼けしてしまうリンゴ、ナシ等々温暖化の弊害が目立ってきている。



江の島の埠頭

身近かなところでは、2023年6月3日・85年ぶりに牛久沼が越水し国道6号が浸水南側に位置する取手市の双葉団地600棟が床下、床上浸水した。ありえないと思っていることが起こっている。



牛久沼の越水

竹害…竹の浸食が止まらない、地下茎で年間3.4メートルも延伸、タケノコのうちに駆除して食い止めないと際限なく広がってしまう、どちらも人手が勝負、高齢化で手が廻らない住宅地に迫る喫緊課題。



竹の浸食-1



国道6号の浸水

葛が原…土手や空地を浸食する葛の猛威繁殖力が強く地下深く根を張って駆除が困難少し気を抜くと一面葛の原。



葛が原の繁殖



竹の浸食-2

人生残り1/4フレイルサルコペニア・加齢とともに起こる健康障害、身体機能低下にしっかり備えて百年時代を楽しんでいきたい。

ありがとうございました

ゴルフコンペ結果報告

■事務局 荒川 照男

ワークショップ「かたちの会」ゴルフサークルの活動報告です。

今年度は事務局（私）の都合により秋と冬の2回を中止し第79回・80回の2回の実施にとどまりました。

前年に斎藤（仲）さんが加わってどうにか3組9名のコンペ開催を維持できていますが平均年齢も80歳を超えるか？というところで毎回開催も危ぶまれる状況です。

このような中、第79回は久しぶりに若林さんが優勝されました。

また新加入の斎藤（仲）さんは3位→2位と高ハンデを活用し好成績を収めました。

下表のごとくネットスコアは80台後半となり皆さんハンデが少なくなったため次回以降は全員ハンデを見直すことといたします。

第79回スタート前



第79回 PMG御殿場ゴルフ
令和5年6月29日(木) 天候=晴れ

	氏 名	Gross	HDC	NET
1	若林さん	95	7	88
2	舩谷さん	96	8	88
3	斎藤さん	122	32	90

第80回 PMG御殿場ゴルフ
令和6年3月28日(木) 天候=曇り一時雨

	氏 名	Gross	HDC	NET
1	西山さん	89	1	88
2	斎藤さん	121	29	92
3	舩谷さん	101	6	95



令和5年度 活動報告

■ 若林 昇

今年度の活動のご報告をいたします。

- ・前年度に引き続き過去のエクステリアデザインのデーター化作業に加えインテリアデザイン関係を森勇輔さん渡辺悦啓さんの協力で実施中。又カラーデザイン関係を牧野克己さん水谷美香さんを中心にまとめ作業が始まりました。
- ・「かたちの会作品展」の実施。（詳細はホームページ参照）
- ・懇親会の実施。（詳細はホームページ参照）
- ・会の活性化を目指して国本さんを筆頭に岡野さん、望月さんが中心にWG活動をはじめました。
- ・幹事3名の退任と慰労会の実施。
竹田 勲さん、塩原正道さん、市原直通さんが退任されました。
本当に長い間お世話になり、ありがとうございました。
- ・事務局担当幹事の変更
杉野 格さん長い間御苦労さまでした、新たに岡嶋敏之さんが事務局を担当されることとなりました。岡嶋さん、よろしくお願いいたします。

以上

■ 編集後記

幹事の退任に伴い今号の会報編集を担当しましたが、原稿をお寄せいただき感謝申し上げます。

次回以降の会報作成を検討していますが、今後は会報発行に限らず「かたちの会」ホームページに掲載する身近なニュースや情報をお寄せいただきたくお願いいたします。

●発行	2024年10月
●発行人	若林 昇
●編集	「かたちの会」編集事務局
●事務局	〒243-0192 テクニカルセンター 日産自動車グローバルデザイン本部内